

令和元年度

和歌山県立近代美術館の運営状況に対する評価書

和歌山県立近代美術館

和歌山県立近代美術館評価様式（令和元年度事業評価用）

1	展覧会（特別展）	3
	展覧会（企画展）	5
	展覧会（常設展）	8
	展覧会（新政策）	12
2	調査・研究	13
3	作品・資料の収集	14
4	作品・資料の状態調査、保存修復、保存環境の整備等	15
5	教育普及	16
6	国内外との連携	19
7	安全と快適性	20
8	入場者数と財源の確保	22

## 和歌山県立近代美術館評価様式（令和元年度事業評価用）

<p>美術館長による評価</p>	<p>まず今年度は、3年に1度の大規模展として、当館が企画担当館となり、全国3会場に巡回した「ミュシャと日本、日本とオルリク」展を無事開催できたことは、高く評価される。本展については、すでに数年来、公立館として単独で海外の美術館と交渉を重ねてきた。開催までには、なお様々の困難な局面を抱えてはいたが、それらを克服し、海外の複数の美術館から作品を借用して、「ジャポニスム」の新たな視点を加えてまとめ上げられた。図録も書籍として刊行され、これら一連の成果は、美術館連絡協議会の「優秀カタログ賞」受賞として結晶した。また、展覧会では、鳥取県立博物館ほかとともに「ニューヨーク・アートシーン」展を開催し、企画も困難なアメリカ現代美術を、滋賀県立近代美術館をはじめとした国内コレクションでまとめた企画は、夏の開催という当館の利点を生かし、目標を大幅に超える来館者を迎えることができた。さらに、外交史料館との共同企画ともいべき「外交史料と近代日本の歩み」展は、和歌山ゆかりの陸奥宗光関連の貴重な史料と美術作品も併陳して、新鮮な試みとなった。また、令和改元に関連した「時代の転換と美術」展の企画展など、展覧会の開催に際して、様々の取り組みの成果が反映されたという過言ではない。加えて、石垣栄太郎作品のホイットニー美術館への貸与、ICOM 京都大会に関して、海外の美術関係者の当館への来館など、海外との連携事業も実現された。作品収集でも、限られた予算の中ではあったが、織田一磨の《大阪風景》ほか、継続して版画作品の充実をはかり、「大家利夫コレクション」150点の受贈はじめ、数多くの貴重なコレクションが加えられたことも評価されよう。</p>
<p>評価部会による評価</p>	<p>和歌山県立近代美術館は、現代建築を代表する建物と50年にわたって集積されたすぐれたコレクションをもつ全国有数の美術館である。しかし、東京はおろか関西の中心からも外れ、その上南北に長い県域の北端に位置する立地条件のため、入館者数に多くを望めない。しかし館長のすぐれたリーダーシップのもとで学芸員はきわめて質の高い美術館活動を展開している。特別展、企画展、常設展はいずれも創意工夫がみられ、高く評価できる。大きなスパンで見れば、熊野信仰、高野山、紀州藩というすぐれた歴史や文化の背景をもつ和歌山県において、美術館は現代に開かれた窓のような存在である。グローバリズムの動向の中で、経済効果とは異なる次元で、和歌山県立近代美術館に文化の内実に基づいた「もうひとつの日本」の象徴的存在となる役割を期待したい。</p>

## 1 展覧会（特別展）

美術館長による所見	今年度は、全国の美術館を巡回する「特別展」を2件開催できた。ともに図録を刊行し、「ニューヨーク・アートシーン」展では、目標入館者数を大幅に超える来館者があったことは、現代美術の紹介という点でも、今後の展覧会企画のあり方を再考する好機となった。「ミュシャと日本、日本とオルリック」展は、当館が3年に1度、特別予算を組んで開催の機会を得ている「大規模展」として企画し、公立館3館でも巡回開催された。当館主導で、直接海外の複数の美術館と交渉を重ね、困難な局面を乗り越えながら、近年国内外から注目されている「ジャポニスム（日本趣味）」について、新たな見地から切り込んで、高い評価を得た。また図録も、国書刊行会から書籍として刊行されたのみならず、美術連絡協議会の賞を与えられたことも喜ばしい。
評価部会による所見	いずれも創意工夫がみられ、高く評価できる。 「ニューヨーク・アートシーン」展は、滋賀県立近代美術館のコレクションを中心に地域連携のモデルというべき企画であるが、その中で和歌山県立近代美術館の出品作品が36点もあることに注目した。若年層を中心に1万5000人の入館者があったという事実は、今後の美術館運営にあたって重要な問題提起になると思われる。 「ミュシャと日本、日本とオルリック」展は、日本とチェコ、ミュシャとオルリックを軸にうまく構成されていた。マイナー・アートと呼ばれる領域であるが、既知、未知の作家が新しい文脈で組み合わせられ、美術史のディテールを示すいい展覧会だった。学芸員の調査研究の成果も生かされており、美術館界からの高い評価もうなずける。

### ①特別展-1

#### ニューヨーク・アートシーン

ロスコ、ウォーホルから草間彌生、バスキアまで — 滋賀県立近代美術館コレクションを中心に（協議会資料6頁）

会 期：6月8日（土）～9月1日（日）

会 場：展示室A・B（1階）

#### A. 展覧会の内容・出品作品・構成等

令和元年度目標	第二次世界大戦後の美術において多くの画期的な表現を生み出したニューヨークの動向を滋賀県立近代美術館のコレクションを中心に紹介する。
自己評価・課題・改善案	滋賀県立近代美術館の協力を得て、同館そして主に関西圏の美術館が所蔵する作品から、ニューヨークを中心に展開した戦後アメリカ美術の流れを辿る展示を構成した。大型作品も多く、1階展示室全体を使って通常の1.5倍の規模でダイナミックに作品を紹介し、作品を体感できる展示空間とした。近年開催できていなかった海外の現代美術を紹介する展覧会でもあり、目標以上の入館者数を達成し、特に若い世代の反応が高く、手応えがあった。当館からは共通経費を十分に負担することができなかったのは課題である。

#### B. 図録・パンフレット・出品目録等の制作

令和元年度目標	図録、ポスター、チラシ、出品目録等を制作する。
自己評価・課題・改善案	図録、ポスター、チラシ、プレスリリース、英語版概要、出品目録を制作した。広報印刷物制作のために生じた高額の著作権料の処理についてはより臨機応変な対応が必要である。

#### C. 関連事業

令和元年度目標	講演会、フロアレクチャー、こども美術館部等を開催する。
自己評価・課題・改善案	講演会を1回、トークイベントを1回、フロアレクチャーを2回、こども美術館部、だれでも美術館部を各1回開催した。

#### D. (A, B, C 以外の)展覧会の工夫

令和元年度目標	抽象表現主義からニュー・ペインティングにいたるおよそ半世紀の歴史を概観するとともに、草間彌生らニューヨークでの日本人芸術家の活動も取り上げる。3館連携の実行委員会に参加し、地域創造の助成金5,000千円の獲得を目指す。
---------	---

自己評価・課題・改善案	近年開催できていなかった海外の現代美術を紹介する展覧会でもあり、目標以上の入館者数を達成し、特に若い世代の反応が高く、手応えがあった。
-------------	---

#### E. 出品作品・資料・来館者の安全確保

令和元年度目標	出品作品・資料・来館者の安全確保を行う。
自己評価・課題・改善案	事故なく会期を終えることができた。

#### F. 入館者数

令和元年度目標	10,000 人を目標とする。
自己評価・課題・改善案	15,079 人の入場があった。

### ①特別展-2

日・チェコ交流 100 周年 ミュシャと日本、日本とオルリク（協議会資料 9 頁）

会 期：11 月 2 日（土）～12 月 15 日（日）

会 場：展示室 A・B（1 階）

#### A. 展覧会の内容・出品作品・構成等

令和元年度目標	3 年に 1 回程度開催される大規模展の第 2 回目として、19 世紀末から 20 世紀にかけて日本美術がヨーロッパに与えた影響を交流 100 周年を迎えるチェコに焦点を当てて紹介する。
自己評価・課題・改善案	当初の計画を途中で大幅に切り替えねばならず、地方美術館がメディアに頼らず独自に海外から作品を借用する際の難しさをあらためて知ることになった。準備にかけた時間は無駄ではなかったが、切替案を短い時間で形にしなければならず、関係者にも無理な仕事を強いねばならなかった。しかし多くの協力を得て「2019 年美連協大賞 優秀カタログ賞」を受賞できた。

#### B. 図録・パンフレット・出品目録等の制作

令和元年度目標	図録、ポスター、チラシ、出品目録等を制作する。
自己評価・課題・改善案	図録、ポスター、チラシ、出品目録、プレスリリース、英語版概要を制作した。

#### C. 関連事業

令和元年度目標	講演会、フロアレクチャー等を開催する。
自己評価・課題・改善案	演奏者による解説つきコンサート、講演会を各 1 回、連続講座を 3 回、フロアレクチャーを 3 回を開催した。

#### D. (A, B, C 以外の)展覧会の工夫

令和元年度目標	アルフォンス・ミュシャとエミール・オルリクの 2 人を軸に、日本とチェコの双方向的な交流を示すことを試みる。
自己評価・課題・改善案	ミュシャの代表作だけでなく、これまで日本ではあまり紹介されなかったオルリクやヴォイチェフ・プライシク、カール・ティーマン、ヴァルター・クレムらの作品を紹介し、日本美術がフランス等を経てチェコへ、またふたたび日本へと影響を与えたことを多数の作品資料によって示した。

#### E. 出品作品・資料・来館者の安全確保

令和元年度目標	出品作品・資料・来館者の安全確保を行う。
自己評価・課題・改善案	事故無く会期を終えたが、新型コロナウイルス感染拡大のため、作品の返却が完了しておらず、状況を注視している。

#### F. 入館者数

令和元年度目標	10,000 人を目標とする。
自己評価・課題・改善案	10,660 人の入場があった。

## 1 展覧会（企画展）

美術館長による所見	今年度は、3つの企画展を開催し、それぞれコレクションを駆使しながらも、新たな視点を加味して企画されていたと思う。「LOVE (your) LIFE! まいにちがアート」は、様々な作品をとおして「美術館と生活」の関わりについて再認識させる機会を提供し、恒例の夏休み企画の9回目として開催した「水と美術」では、和歌山市在住の現代美術家・坂井淑恵氏の協力を得て、新政策「芸術に親しもう! おでかけ美術館」(後述)にも展開できる企画となった。「時代の転換と美術」は、令和に元号が改められたのを機に、「大正」前後に2度の改元が行われながら、新たな表現が芽生えた時代をふりかえるタイムリーな企画となった。
評価部会による所見	いずれも創意工夫がみられ、高く評価できる。 「LOVE (your) LIFE!」展は、芸術(非日常)と生活(日常)を往還させる試みであり、日常と非日常の接点にある美術館において、日常における非日常的行為である鑑賞体験を際立たせるものとして5000人余の入館者があった。 「なつやすみの美術館」展は、10000人という目標にわずかに達しなかったが、作家や学生と協力して多様な活動を展開した点は評価できる。 「時代の転換と美術」は、さきの大型展以来持続するテーマであり、その問題意識は理解できるが、目標入館者数とのギャップは一考を要する。 和歌山県の地勢や各地域からすぐれた美術家を生み出した文化的背景を考えると、「おでかけ美術館」のような事業は積極的に進めるべきであろう。

### ②企画展-1

LOVE (your) LIFE! まいにちがアート（協議会資料5ページ）

会 期：4月27日（土）～6月30日（日）

会 場：展示室C（2階）

#### A. 展覧会の内容・出品作品・構成等

令和元年度目標	身近な生活を題材にした作品を通して作り手と見る人の視点をつなぎ、作品を楽しむ方法を提示する。
自己評価・課題・改善案	アートが自身の生活といかに関係しているかを発見してもらえるよう展示できた。アートを通して生活の諸相を再確認することで、自身の生活を興味深く感じ、自身の日常の価値を認め、美術館から帰った後の生活を豊かにすることができたと伝えられた。借用して作品を展示できれば、より多様性を強調し展覧会を充実させられたため、輸送費の確保が課題である。

#### B. 図録・パンフレット・出品目録等の制作

令和元年度目標	ポスター、チラシ、出品目録を制作する。
自己評価・課題・改善案	ポスター、チラシ、プレスリリース、英語版概要、出品目録を制作した。

#### C. 関連事業

令和元年度目標	フロアレクチャー、こども美術館部等を開催する。
自己評価・課題・改善案	ワークスペースを設ける他、ギャラリートークを3回、だれでも美術館部を2回、こども美術館部を1回実施した。

#### D. (A, B, C 以外の)展覧会の工夫

令和元年度目標	来館者が作ることを通じて作者や作品をより身近に感じられるようなコーナーを設置する。
自己評価・課題・改善案	鑑賞者が作り手との間に共通点を見いだせるよう構成。展示室外にワークスペースも設けて、実制作の楽しみにもつなげた。

#### E. 出品作品・資料・来館者の安全確保

令和元年度目標	出品作品・資料・来館者の安全確保を行う。
自己評価・課題・改善案	事故無く会期を終えることができた。

F. 入館者数

令和元年度目標	3,000 人を目標とする。
自己評価・課題・改善案	5,042 人の入場があった。

②企画展-2

なつやすみの美術館 9「水と美術 featuring 坂井淑恵」(協議会資料 7 頁)

会 期：7 月 9 日(火)～9 月 8 日(日)

会 場：展示室 C (2 階)

A. 展覧会の内容・出品作品・構成等

令和元年度目標	和歌山市在住の画家・坂井淑恵氏の作品を入口に、水を主題とした作品を通して楽しみながら美術に接する機会を提供する。
自己評価・課題・改善案	コレクション展が開催されない時期となるため、坂井淑恵氏の作品とともに当館所蔵品を多く展示し、テーマに沿った新たな視点から紹介した。またワークスペースでは坂井氏の作品とともに展覧会のテーマへの理解がより深まるよう「水のかお、どんなかお？」という課題を設定し、新政策「芸術に親しもう！おでかけ美術館」に展開できる内容とした。

B. 図録・パンフレット・出品目録等の制作

令和元年度目標	ポスター、チラシ、出品目録、各種ワークシート等を制作する。
自己評価・課題・改善案	ポスター兼チラシ、出品目録、プレスリリース、英語版概要を制作した。

C. 関連事業

令和元年度目標	講演会、フロアレクチャー、ワークショップ、和歌山大学学生による作品鑑賞会、こども美術館部等を開催する。
自己評価・課題・改善案	ワークスペースを設置する他、アーティストトークを 1 回、作家によるワークショップを 1 回、フロアレクチャーを 4 回、こども美術館部を 1 回、だれでも美術館部を 1 回、和歌山大学美術館部の学生によるたまごせんせいとわくわくアートツアーを 8 日に渡り実施した。

D. (A, B, C 以外の)展覧会の工夫

令和元年度目標	特に来館者が増える時期となるため、作品と来館者の安全を十分に確保できる展示を行う。またわかりやすい解説パネルの掲出や積極的な制作活動を行うためのエリアを設置し、幅広い年齢層がそれぞれ新しい鑑賞体験を得るためのきっかけを作る。
自己評価・課題・改善案	展覧会鑑賞を踏まえてワークシートやワークスペースでの制作に取り組める内容とし、水の生み出す自然現象を入り口として作品の理解が深まるよう配慮した。ポスター、チラシとも「おでかけ美術館」と共用で製作することとなり、この展覧会単独での広報印刷物が製作できなかったことから、いずれの内容も十分に告知することができなかった。次年度に向けて、展覧会それぞれの印刷物を製作することが課題である。

E. 出品作品・資料・来館者の安全確保

令和元年度目標	出品作品・資料・来館者の安全確保を行う。
自己評価・課題・改善案	事故無く会期を終えることができた。

F. 入館者数

令和元年度目標	10,000 人を目標とする。
自己評価・課題・改善案	9,591 人の入場があった。

## ②企画展-3

### 時代の転換と美術 「大正」とその前後（協議会資料 8 頁）

会 期：9月18日（水）～10月20日（日）

会 場：展示室C（2階）

#### A. 展覧会の内容・出品作品・構成等

令和元年度目標	令和という、新しい元号の時代が始まったのを記念し、明治から大正、大正から昭和へと、15年間の短い間に二度の改元が行われた大正時代とその前後の美術を紹介する。
自己評価・課題・改善案	美術団体の結成や、活躍地域等によるのではなく、明治から大正、昭和へと移り変わる時代の中で、社会や人と美術の関わりを、「1 自己意識の高まり」、「2 うつりかわる都市」、「3 欧米との距離」、「4 風景の意味」、という4つの章で紹介。美術作品を通して、およそ100年前の時代と現在とをつないで考えられるような構成とした。近年の調査研究や収集活動の成果を背景に、大正時代とその前後の美術を、単に美術史的な文脈の流れではなく、多面的に紹介することができた。

#### B. 図録・パンフレット・出品目録等の制作

令和元年度目標	ポスター、チラシ、出品目録を制作する。
自己評価・課題・改善案	ポスター、チラシ、出品目録、プレスリリース、英語版概要を制作した。

#### C. 関連事業

令和元年度目標	フロアレクチャー、こども美術館部等を実施する。
自己評価・課題・改善案	フロアレクチャーを2回、こども美術館部、だれでも美術館部を各1回実施した。

#### D. (A, B, C 以外の)展覧会の工夫

令和元年度目標	大正デモクラシーという言葉で表されるように、自由主義的な思想や運動が展開した政治や社会と美術文化の新しい展開を示す。
自己評価・課題・改善案	近年同時代の日本画を出品する機会が多く、保存上の問題で日本画の出品を見送った。展示の質が落ちた訳ではないが、いくらかでも同時に展示できていれば、より内容が充実したと考えられる。今後は元々所蔵作品の少ない日本画の収集にも意識を高めたい。

#### E. 出品作品・資料・来館者の安全確保

令和元年度目標	出品作品・資料・来館者の安全確保を行う。
自己評価・課題・改善案	事故無く会期を終えることができた。

#### F. 入館者数

令和元年度目標	3,000 人を目標とする。
自己評価・課題・改善案	2,164 人の入場があった。

## 1 展覧会（常設展）

美術館長による所見	「常設展」は、当館コレクションを紹介する美術館活動の根幹を成す事業であることはいうまでもない。加えて今年度も、関西におけるもう一つの近代美術館である滋賀県立近代美術館のコレクションが当館に寄託されている、その協力機会も生かしながら、近代から現代まで、適宜展示替えを行って紹介できた。さらに、新収蔵作品を披露し、特集展示も加え、「特別展」と連動した企画を交えるなど、コレクションの広がりを示せたことも有意義であったと思う。また、今年から新たに着手した新政策「芸術に親しもう！おでかけ美術館」（第1回 紀南地方）は、当館と太地町教育委員会との共催事業で、太地町立石垣記念館で開催され、今年の「なつやすみの美術館」展に出品いただいた坂井淑恵氏に協力を仰いで、地方では鑑賞の機会も限られる現代美術展の開催・普及という意味でも貴重な試みであった。
評価部会による所見	いずれも創意工夫がみられ、高く評価できる。 「ニホンラシサ」は、先入観や固定概念をひとまずさしおいて、常に「問い」として考えるべき問題に取り組んだ。

### ③常設展-1

#### コレクション展 2019- 春 + 新収蔵作品（協議会資料 11 頁）

会 期：4月27日（土）～5月19日（日）

会 場：展示室 A・B（1 階）

#### A. 展覧会の内容・出品作品・構成等

令和元年度目標	常設展示 コレクションの特色を生かし、所蔵作品への理解を深められるようテーマを設けながら近現代美術の秀作を展示する。また、改築にあわせて滋賀県立近代美術館から寄託された作品により、当館の現代美術コレクションに厚みをもたせた展示を行う。 特集展示 近年新たに収蔵された作品を紹介するとともに、会期が短いことから展示期間に制限のある版画作品等を多く展示する。
自己評価・課題・改善案	特集展示のエリアをあえて区切らず、近年新たに収蔵された作品と既収蔵の作品を交えて全体を構成することで、収集の一貫性とともにより広がりを示すことができた。

#### B. パンフレット・出品目録等の制作

令和元年度目標	常設展示 出品目録を制作する。 特集展示 出品目録を制作する。
自己評価・課題・改善案	プレスリリース、出品目録を制作した。

#### C. 関連事業

令和元年度目標	フロアレクチャー等を開催する。
自己評価・課題・改善案	ギャラリートークを1回開催した。

#### D. (A, B, C 以外の)展覧会の工夫

令和元年度目標	常設展示 時代ごとの美術の展開を示すとともに、技法などによるコーナーを設け、様々な角度から作品に接することができるよう工夫する。 特集展示 収集方針に基づく一貫性を保ちながら、作品の幅を広げていることを示す。
自己評価・課題・改善案	常設展示 過去5年の間に新たに収蔵した作品を数多く選び、関連するこれまでの収蔵品と組み合わせることで、作家の側面や作家および作品同士のつながり、その時代の雰囲気や表現の特徴などが浮かび上がる構成とした。新たな作品が加わることで広がる大きな世界、また小さくとも重要な特質を示すことで、継続した地道な美術館活動の重要性も提示したいと考えた。調査研究、展示、収集というサイクルの中で、当館のコレクションがどのように広がっているのかを提示した。 特集展示 展示では、個別の作品解説を付し、分かりやすくそれぞれ作品が持つ意味を示した。新収蔵作品の中には、展示スペースの問題で出品を見送ったものもあるため、今後別の機会に改めて紹介したい。

E. 出品作品・資料・来館者の安全確保

令和元年度目標	出品作品・資料・来館者の安全確保を行う。
自己評価・課題・改善案	事故無く会期を終えることができた。

F. 入館者数

令和元年度目標	2,000 人を目標とする。
自己評価・課題・改善案	2,241 人の入場があった。

③常設展-2

コレクション展 2019- 秋

特集 みやこの洗練 明治の京都画壇

特集 生誕 130 年記念 せんぱん—前川千帆の版画—（協議会資料 11 頁）

会 期：9 月 10 日（火）～10 月 20 日（日）

会 場：展示室 A・B（1 階）

A. 展覧会の内容・出品作品・構成等

令和元年度目標	常設展示 所蔵作品への理解を深められるよう近現代美術の秀作を展示するとともに、改築にあわせて滋賀県立近代美術館より寄託された作品により現代美術の展開を紹介する。 特集展示 2 本の特集展示を行い、滋賀県立近代美術館所蔵品から明治期京都の日本画を展示するとともに、漫画家として活躍し、版画界でも知られた前川千帆（1889～1960）の版画作品を中心に紹介する。
自己評価・課題・改善案	常設展示 特集展示「明治の京都画壇」のコーナーに続けて、戦後の京都で日本画材料による作品を展開したパブリック美術協会の作家たちを展示。また、同時期開催の企画展「時代の転換と美術」に合わせ、大正～昭和初期の近代西洋美術や佐伯祐三作品をまとめて紹介した。 特集展示 【明治の京都画壇】滋賀県立近代美術館の寄託作品の中から、明治期を中心に京都の日本画を紹介した。【前川千帆の版画】版画家であり漫画家としても活動した前川千帆（1888～1960）について、所蔵作品や資料を中心に展示した。

B. パンフレット・出品目録等の制作

令和元年度目標	常設展示、特集展示とも出品目録を制作する。
自己評価・課題・改善案	常設展示 出品目録、プレスリリースを制作した。 特集展示 チラシ、プレスリリース、出品目録、英語版概要（前川千帆の版画）を制作した。

C. 関連事業

令和元年度目標	特集展示 フロアレクチャーを 3 回実施する。
自己評価・課題・改善案	特集展示 フロアレクチャーを 2 回、スライドレクチャー（前川千帆の版画）を 1 回実施した。

D. (A, B, C 以外の)展覧会の工夫

令和元年度目標	常設展示 季節感を感じさせる作品を紹介する。 特集展示 作家・作品解説を設置して、わかりやすい展示になるよう工夫する。
自己評価・課題・改善案	常設展示 【コレクション展】様々な時代やジャンルをバランスよく紹介できた一方、展示室の構造上の問題もあり、各コーナーが入り乱れて全体としての内容が分かりづらい構成となった。 特集展示 【明治の京都画壇】所蔵品や個人蔵品もまじえて、幕末・明治から大正初期までの京都を代表する日本画家の作品と大まかな流れを紹介することができた。当館に所蔵の少ない幕末から明治期の日本画をまとめて紹介したことで、来館者へ新鮮な印象を与え、前年「国画創作協会の全貌展」を観た人には、その前時代の動きを知ってもらうことができたと思われる。【前川千帆の版画】近年は殆ど版画家としてクローズアップされることのなかった千帆について、改めて調査研究を進めることができた。その成果をまとめて「前川千帆年譜」として学会誌『大正イマジュリィ』へ投稿したが、館として図録やリーフレット等の印刷物を発行することができなかったため、その予算確保が課題である。

E. 出品作品・資料・来館者の安全確保

令和元年度目標	出品作品・資料・来館者の安全確保を行う。
自己評価・課題・改善案	事故無く会期を終えることができた。

F. 入館者数

令和元年度目標	2,000 人を目標とする。
自己評価・課題・改善案	2,418 人の入場があった。

③常設展-3

コレクション展 2019- 冬 特集 ニホンラシサを探せ（協議会資料 12 頁）

会 期：8月4日（土）～10月21日（日）

会 場：展示室C（2階）

A. 展覧会の内容・出品作品・構成等

令和元年度目標	常設展示 所蔵作品を通して美術文化への理解を深められるよう、テーマを設けながら和歌山ゆかりの作家を中心に近現代美術の秀作を展示する。 特集展示 同時開催の特別展「日・チェコ交流 100 周年 ミュシャと日本、日本とオルリク」と合わせ、コレクションから日本的なモチーフによる作品を紹介する。
自己評価・課題・改善案	常設展示 保田龍門・春彦父子、建皇大夢・覚造父子をはじめ、芸術家たちのつながりを意識できるような展示を試みた。 特集展示 「日・チェコ交流 100 周年 ミュシャと日本・日本とオルリク」展で紹介したジャポニスムに関連して、「日本らしさ」を示す作品を紹介した。日本の風景や建築、季節に取材した作品を紹介するほか、戦後の現代美術にも日本の要素を見いだせるよう展示を構成した。

B. パンフレット・出品目録等の制作

令和元年度目標	常設展示 出品目録を制作する。 特集展示 作家解説、出品目録、英語版概要を制作する。
自己評価・課題・改善案	常設展示、特集展示共通のプレスリリース、特集展示簡易版チラシ、出品目録、英語版概要を制作した。

C. 関連事業

令和元年度目標	常設展示 フロアレクチャー等を開催する。 特集展示 フロアレクチャー等を開催する。
自己評価・課題・改善案	常設展示、特集展示 合わせてフロアレクチャーを2回、こども美術館部を1回、だれでも美術館部を1回、和歌山大学美術館部による「たまごせんせいとわくわくアートツアー」を1回開催した。

D. (A, B, C 以外の)展覧会の工夫

令和元年度目標	常設展示 同時開催の企画展に関連するコーナーを設け、理解を深められるようにする。また、滋賀県立近代美術館からの寄託品とともに、当館所蔵品の魅力を紹介する。 特集展示 解説を充実させ、わかりやすい展示になるよう工夫する。
自己評価・課題・改善案	常設展示 特集展示への導入として県ゆかりの作家たちの作品からアメリカの現代絵画へと展開する展示を行った。 特集展示 主に所蔵作品を通して、現在の私たちにとっての「日本らしさ」に迫ることができた。故郷の文化を体現するものが、私たちの身近に存在するというのを、「つきなみ：月次」を鍵として展示し、グローバル化が進められるなかでその必要性を示すことができた。また、海外で「日本らしさ」として認められる現代美術や、海外のアーティストの目が見いだした日本の風景を合わせて展示し、その違いを楽しめるように構成できた。

E. 出品作品・資料・来館者の安全確保

令和元年度目標	出品作品・資料・来館者の安全確保を行う。
自己評価・課題・改善案	事故無く会期を終えることができた。

F. 入館者数

令和元年度目標	5,000 人を目標とする。
自己評価・課題・改善案	5,860 人の入場があった。

③常設展-4

コレクション名品選（協議会資料 13 頁）

会 期：令和 2 年 1 月 4 日（土）～1 月 26 日（日）

会 場：展示室 B（1 階）

A. 展覧会の内容・出品作品・構成等

令和元年度目標	所蔵作品を通して美術文化への理解を深められるよう、テーマに沿って秀作を展示する。
自己評価・課題・改善案	当館コレクションから、和歌山ゆかりの作家を中心に、その代表作や隠れた名品を、1 作家 1 点を基本にして選び、作家や作品の関連性を重視しながら展示を構成した。

B. パンフレット・出品目録等の制作

令和元年度目標	出品目録を制作する。
自己評価・課題・改善案	プレスリリース、出品目録、英語版概要を制作した。

C. 関連事業

令和元年度目標	フロアレクチャーを 1 回開催する。
自己評価・課題・改善案	こども美術館部、だれでも美術館部、和歌山大学美術館部による「たまごせんせいとわくわくアートツアー」を各 1 回開催した。

D. (A, B, C 以外の)展覧会の工夫

令和元年度目標	県展が展示室 A と C での開催となり、通常の 1/3 の規模となるため、所蔵品からよりすぐった作品で構成する。
自己評価・課題・改善案	県展を鑑賞した来館者に、和歌山ゆかりの優れた作家の作品に触れてもらう目的もあり、入場は無料とするとともに、すべての作品に解説を付け、出身や経歴、見どころなどをわかりやすく記した。2 年続けて名品選というタイトルで、和歌山ゆかりの作家中心の展示を行ったので、次年度以降はテーマを見直してもよいかもかもしれない。

E. 出品作品・資料・来館者の安全確保

令和元年度目標	出品作品・資料・来館者の安全確保を行う。
自己評価・課題・改善案	事故無く会期を終えることができた。

F. 入館者数

令和元年度目標	1,000 人を目標とする。
自己評価・課題・改善案	1,879 人の入場があった。

#### ④新政策-1

### 芸術に親しもう！ おでかけ美術館 第1回 紀南地方（協議会資料 14 頁）

#### 坂井淑恵展「水の中」

会 期：令和元年 10 月 3 日（木）～27 日（日）

会 場：太地町立石垣記念館

主 催：和歌山県立近代美術館、太地町教育委員会

#### A. 展覧会の内容・出品作品・構成等

令和元年度目標	近代美術館への来館が困難な地域で、活躍中の和歌山ゆかりの美術家の作品を紹介する。第1回は紀南地方において、画家として活動が続けている坂井淑恵氏の作品を紹介する。
自己評価・課題・改善案	紀南地方の中学生を中心に、作品に触れる機会が少ない人々へ向けて、描かれている対象の把握がしやすく、サイズが大きく色彩も独特で美しい坂井淑恵氏の作品を選び、美術を体験する導入となるよう工夫した。近代美術館での「なつやすみの美術館」展でのワークスペースで制作された来館者の作品を太地でも展示したワークスペースを再現し、来館者が自身の制作にも取り組みやすい環境を整えた。また、会場に関連して石垣栄太郎と綾子夫妻についても学べるよう配慮した。

#### B. パンフレット・出品目録等の制作

令和元年度目標	ポスター、チラシ、出品目録、ワークシート等を制作する。
自己評価・課題・改善案	ポスター兼チラシ、プレスリリース、リーフレットを制作した。近代美術館での「なつやすみの美術館」展と共通のポスターとなったため、いずれの展覧会についてもアピールが弱まった。単独の広報印刷物の作成が課題である。リーフレットは、展示作品を紹介するとともに、ワークシートとしての内容も持たせ、石垣栄太郎についても学べるものとして持ち帰っても、学習資料として活用できるものとした。

#### C. 関連事業

令和元年度目標	ワークショップ、レクチャー等を開催する。
自己評価・課題・改善案	学校からの団体で来館した 10 校に対してレクチャーを行い、作家によるワークショップを 1 回実施した。すべての学校に対応するための往来は負担であり、会期中の滞らないし現地での教育スタッフの確保が課題である。

#### D. (A, B, C 以外の)展覧会の工夫

令和元年度目標	学校から会場までのバスを運行し地域の中学生を中心に来館を促す。
自己評価・課題・改善案	同時期に開催される「紀の国トレイナー 2019」とも連携をはかり、ツアーに対してもレクチャーなどを行った。近隣に設置されている太地町立くじらの博物館と合わせて来館される学校がほとんどだったが、より強く連携できれば良かった。台風や荒天のため臨時休館を余儀なくされた日もあったが、地域からも多くの来館があった。紀南では文化的な事業が日常的に少ないため、開催に対しては好意的な評価を多く得ることができた。石垣栄太郎・綾子夫妻についても地域でも知る人が少なくなっており、啓発の機会とすることができた。継続しての開催が課題である。

#### E. 出品作品・資料・来館者の安全確保

令和元年度目標	出品作品・資料・来館者の安全確保を行う。
自己評価・課題・改善案	事故無く会期を終えることができた。

#### F. 入館者数

令和元年度目標	1,000 人を目標とする。
自己評価・課題・改善案	690 人の入場があった。

## 2 調査・研究（協議会資料 16 頁以下）

美術館長による所見	美術館活動において、展覧会や作品収集と並んで「調査・研究」も重要な柱を形成するが、その成果は、展覧会図録や企画展パンフレットに反映される。今年度は、「ニューヨーク・アートシーン」展、そして「ミュシャと日本、日本とオルリク」展で、展覧会の調査・研究の成果として図録を刊行するとともに、「ミュシャと日本、日本とオルリク」は、国書刊行会から一般書籍としたことも特筆できる。
評価部会による所見	各学芸員が企画展や所蔵品に関連し、あるいは外部と協力して着実にすすめており、その成果は十分あがっている。各学芸員の専門や担当に基づき、美術館の事業に合わせて着実に行われている。積極的に外部と連携し、教育普及活動にも活用されていることも高く評価できる。

### ①調査・研究

#### A. 美術に関する調査・研究件数

令和元年度目標	美術に関する調査・研究を行う。
自己評価・課題・改善案	学芸員各自がそれぞれの主題に関する調査・研究を行った。(協議会資料 16 頁①1)

#### B. 外部研究機関・団体等と共同した調査・研究

令和元年度目標	外部研究機関・団体等と共同した調査・研究を行う。
自己評価・課題・改善案	10 件の共同活動をを行った。(協議会資料 16 頁 ①2)

### ②調査・研究成果の活用

#### A. 展覧会・教育普及活動等への成果の反映

令和元年度目標	展覧会・教育普及活動等に成果を反映する。
自己評価・課題・改善案	28 件の成果があった。(協議会資料 17 頁 ②1)

#### B. 学術的公表（館研究紀要・報告書・学会誌・インターネット等）

令和元年度目標	学術的公表(館研究紀要・報告書・学会誌・インターネット等)を行う。
自己評価・課題・改善案	22 件の学術的公表を行った。(協議会資料 18 頁 ②2)

### 3 作品・資料の収集（協議会資料 20 頁以下）

美術館長による所見	限られた購入予算ではあるが、それでも今年度は、エミール・オルリクや織田一磨の《大阪風景》20点組の作品、川上澄生、徳力富吉郎ほか、当館が精力的に収集をすすめる国内外の近代版画コレクションを補完する貴重な作例が加えられた。さらに黒田重太郎の洋画関係2点や、「なつやすみの美術館9」に出品された和歌山在住の現代美術家・坂井淑恵の評価の高い作例、粥川伸二の日本画作品など、学芸員の作品調査の成果が示された収集となった。また、寄贈作品についても、大家利夫コレクションとして貴重な装丁本ほか 150 点は、当館の作品収集領域を広げる意味でも有益であり、継続して寄贈いただいている田中恒子コレクションとともに、当館の収集を特色づける作例として意義深い。
評価部会による所見	乏しい予算の中で、購入作品は、効果的に収集されている。受贈作品については、近年の実績は驚異的なものであり、和歌山県立近代美術館の評価や信頼性の証左であろう。

#### ①作品・資料の収集

##### A. 美術作品収集方針に沿った作品・資料の収集（コンプライアンス、収集手続き）

令和元年度目標	美術作品収集方針に沿った適正な手続きに基づいて作品・資料の収集を行う。
自己評価・課題・改善案	令和2年3月5日に美術作品選定委員会を開催し、収蔵について適正な手続きを経て行った。

##### B. 購入、受贈に係る作品・資料の点数、内容

令和元年度目標	購入・受贈において作品・資料の点数、内容が適切であるようにする。
自己評価・課題・改善案	購入作品 25 点、寄贈作品 8 件 180 点の収蔵を行った。（協議会資料 20 頁）

#### ②図書資料の収集・公開

##### A. 図書資料の収集、研究や閲覧への活用

令和元年度目標	図書資料を収集し、研究や閲覧に活用する。
自己評価・課題・改善案	逐次刊行物 15 タイトル 70 冊、単行図書 40 タイトル 43 冊を収集し、研究、閲覧に活用している。（協議会資料 37 頁）

#### 4 作品・資料の状態調査、保存修復、保存環境の整備等（協議会資料 39 頁以下）

美術館長による所見	後世に貴重な作品を引き継いでいくために、常に作品の状態を調査・観察し、保存修理につとめることは、いまでもなく美術館活動の重要な柱のひとつである。そのためには、予算も確保しなければならないが、外部の専門修復家を招いてアドバイスを受け、学芸員の意識の向上にも努めなければならない。当館学芸員は、そうした点において高い見識を有しており、保存環境の整備とともに、今後さらなる調査の継続を期待したい。
評価部会による所見	作品の管理、保存、修復にも着実に取り組んでいるものと評価できる。収蔵作品や資料の情報公開への取り組みを一層進める必要がある。

##### ①作品・資料の状態調査

令和元年度目標	作品・資料の状態調査を適切に行う。
自己評価・課題・改善案	展示、貸出の機会にあわせて継続的に所蔵品の状態を調査し、保存上の対策を必要とする作品については、マウントや額裏板の改良・交換を中心に処置を進めた。（協議会資料 39 頁）

##### ②作品・資料の保存環境

令和元年度目標	作品・資料にとって適切な保存環境を保ち、整備する。
自己評価・課題・改善案	これまでの数年間に蓄積したデータをもとに、季節、天候による環境の変化から起こる虫菌害を抑えることができた。計画的な清掃にあわせ、毎月のトラップによるモニタリングの結果によって対策を加え、良好な保存環境を実現しつつある。空調設備の老朽化に伴う環境の不安定要素への対応が課題である。（協議会資料 39 頁②）

##### ③作品・資料の保存修復

令和元年度目標	作品・資料に対し適切な保存修復を行う。
自己評価・課題・改善案	館外の保存修復専門家による状態調査を実施・記録し、修復が必要と判断された作品のうち、優先順位の高いものについて処置を実施した。彫刻作品 2 点の修復を行うことができた。（協議会資料 39 頁③）

##### ④作品・資料の管理

作品・資料の管理（台帳・データベース）

令和元年度目標	作品・資料の管理(台帳・データベース)を適切に行う。
自己評価・課題・改善案	作品の状態調査、展示、貸出記録、台帳・データベースの管理を日常的に実施、更新処理を行った。

##### ⑤作品・資料のデータ公開

令和元年度目標	作品・資料のデータを公開する。
自己評価・課題・改善案	展覧会出品目録、新収蔵作品目録を年報に掲載した。インターネットを通じて公開する所蔵作品情報を充実させることが課題である。

## 5 教育普及（協議会資料 40 頁以下）

美術館長による所見	当館の教育普及事業については、毎年恒例の「なつやすみの美術館」展開催のほか、児童・生徒たちを対象としたワークショップやガイドツアーをはじめ、すでに高い評価を得ている。今年度も受入数、参加者数ともに目標を大きく上回る成果を示すことができている。
評価部会による所見	和歌山大学や小中学校、地域の文化団体と連携して、地域の実情に応じた独自の活動形式によって展開していること、またそこに学芸員の熱意を感じて好ましい。

### ①学校・団体鑑賞の受入

#### A. 受入回数

令和元年度目標	120 件を目標とする。
自己評価・課題・改善案	179 件の団体を受け入れた。

#### B. 参加者数

令和元年度目標	3,000 人を目標とする。
自己評価・課題・改善案	4,237 人を受け入れた。

#### C. 鑑賞教材等の制作

令和元年度目標	展覧会にあわせて鑑賞教材を制作する他、教員への利用促進案内等を制作する。
自己評価・課題・改善案	「なつやすみの美術館」展に向けて、教員とともに研究会を開催し、ワークシートの作成等に取り組んだ。利用案内を新たに作成し、配布を行っている。

### ②講演会・解説会等

#### A. 講演会等の回数

令和元年度目標	25 回を目標とする。
自己評価・課題・改善案	講演会、ギャラリートークなどを 42 回開催した。

#### B. 講演会等の参加者数

令和元年度目標	500 人を目標とする。
自己評価・課題・改善案	1109 人の参加があった。

### ③ワークショップ・バックヤードツアー等の体験的プログラムやコンサート

#### A. ワorkshop等の回数

令和元年度目標	4 回を目標とする。
自己評価・課題・改善案	ワークショップ、バックヤードツアー、こども美術館部などを 11 回開催した。

#### B. ワorkshop等の参加者数

令和元年度目標	80 人を目標とする。
自己評価・課題・改善案	168 人の参加があった。

#### ④県民や地域との連携

##### A. ボランティア活動の受け入れ

令和元年度目標	図書ボランティアの活動を受け入れる。
自己評価・課題・改善案	延べ 111 人となる活動を受け入れた。(協議会資料 41 頁)

##### B. 友の会等の支援組織の活動への協力

令和元年度目標	友の会、NPO 等の芸術文化支援組織の活動に協力する。
自己評価・課題・改善案	和歌山県立近代美術館友の会の活動や、和歌山芸術文化支援協会によるワークショップなどに協力した。(協議会資料 42 頁)

##### C. 学校・教員等と連携した事業

令和元年度目標	地域の教員等と連携して和歌山美術館教育研究会を組織し、中学校での宿題としての展覧会利用やワークシート製作などに取り組む。和歌山大学教育学部と県教育委員会の連携事業の一環として、和歌山大学教育学部、同附属小学校・中学校と連携して展覧会を課題とした鑑賞、制作、指導法の策定に取り組む。和歌山市美育協会に協力し、鑑賞に関する研修会を開催する。学校教員との協力体制の強化を目的とした研修会を継続して開催する。
自己評価・課題・改善案	中学校教科等別研修会の開催、和歌山美術館教育研究会を 11 回開催するなど、学校や教員と連携した事業を実施することができた。(協議会資料 43 頁)

##### D. 地域と連携した事業

令和元年度目標	地域と連携した事業を行う。文化学術課の事業である「外交史料と日本のあゆみ」展に協力する。第 73 回和歌山県美術展覧会(県展)、第 5 回ジュニア県展を文化学術課との連携のもとに実施する。県警音楽隊たそがれコンサートへの事業協力を行う。マジカルミュージックツアー等イベントへの事業協力を行う。
自己評価・課題・改善案	文化学術課の事業である「外交史料と日本のあゆみ」展に協力し、美術に関する内容を追加した構成として実施した。第 73 回和歌山県美術展覧会(県展)、第 5 回ジュニア県展を文化学術課との連携のもとに実施した。県警音楽隊たそがれコンサートやマジカルミュージックツアー等イベントへの事業協力を行った。第 32 回全国健康福祉祭和歌山大会(ねんりんピック紀の国わかやま 2019)にあわせて行われた「ねんりんピック美術展」の開催に協力した。

##### E. 県内博物館・図書館施設等と連携した事業

令和元年度目標	和歌山県立紀伊風土記の丘が開催する風土記まつりに参加する。図書館を含む県立 5 館でスタンプラリーを実施する。「和歌山県博物館施設等災害対策連絡会議」の一員として活動する。
自己評価・課題・改善案	県立 5 館が連携してスタンプラリーを実施した。県立博物館と共同でバックヤードツアーを開催した。和歌山県立紀伊風土記の丘主催の「風土記まつり」に参加し、子供向けのワークショップ、出張ミュージアムショップの運営を行った。和歌山県博物館施設等災害対策連絡会議の活動に幹事館として参加予定であったが、新型コロナウイルス拡散防止のため中止となった。

##### F. 観光資源として活用できる方策

令和元年度目標	近隣の宿泊施設にチラシ等を配布し、利用についてアピールする。
自己評価・課題・改善案	県と和歌山市の連携により「わかやままちなかミュージアムマップ」を作成した他、県内各地の教育委員会、ロータリークラブ、ライオンズクラブ等への利用アピールを行った。オリジナルスタンプによるスタンプラリーを実施し通年のリピーター獲得に取り組んだ。

## ⑤人材育成

### A. 博物館実習生・インターンシップ・教員研修などの受け入れ

令和元年度目標	博物館実習生・職場体験学習・インターンシップ・教員研修などを受け入れる。
自己評価・課題・改善案	博物館実習は6大学から9名を6日間、職場体験学習等は14校から31名を受け入れた。(協議会資料45頁)

## ⑥機関誌「NEWS」の刊行

令和元年度目標	機関誌を年4回刊行する。
自己評価・課題・改善案	機関紙「NEWS」を年4回、各2,500部を発行した

## ⑦県民への直接的情報提供

### A. 問い合わせ・質問(電話・来館等)への対応

令和元年度目標	専門的内容に関する問い合わせ・質問(電話・来館等)に対応する。
自己評価・課題・改善案	作者や展覧会等についての問い合わせ7件に対応した。

## ⑧メディア等への情報発信

### A. 掲載件数、メディアへの広報・情報提供活動、番組制作等への協力

令和元年度目標	掲載100件を目標とする。メディアへの広報・情報提供活動を行う。番組制作等に協力する。
自己評価・課題・改善案	新聞・雑誌等に67件の掲載があった他、カタログなどの撮影に協力した。

## ⑨WEBによる広報

### A. ホームページアクセス件数・更新回数・工夫

令和元年度目標	ホームページ月間ページビュー数15,000件を目標とする。
自己評価・課題・改善案	ホームページ月間ページビュー数は340,848件であった。

### B. メールマガジン等の発行回数・工夫

令和元年度目標	10回を目標とする。メールマガジンに画像を加える等興味を引く工夫をする。
自己評価・課題・改善案	メールマガジンは13回発行した。登録読者数html版611名(前年度比45名増)、テキスト版34名(前年度比2名増)、計645名Facebook、twitterを通じて情報提供を行った。

## ⑩広報印刷物の制作

### A. ポスター・チラシ・案内はがき・年間の展覧会カレンダー等の情報提供・広報活動

令和元年度目標	ポスター・チラシ・案内はがき・年間の展覧会カレンダー等の情報提供・広報活動を行う。
自己評価・課題・改善案	平成31年度展覧会カレンダー 6.1×10.5cm 巻き5ツ折(10頁)を製作(10頁)する他、各展覧会でポスター、チラシ等を制作した。

## 6 国内外との連携

美術館長による所見	今年度は、「特別展」である「ミュシャと日本、日本とオルリク」展を、公立館3館に巡回開催し、「ニューヨーク・アートシーン」展は、滋賀県立近代美術館ほかのコレクションを借用することによって、開催も困難なアメリカ現代美術展を開催できたことは有益であった。また、ホイットニー美術館で開催された展覧会への当館所蔵の石垣栄太郎作品2点の出品・貸与、ICOM 京都大会に参加した海外からの美術関係者の来館、外交史料館との共催による「外交史料と近代日本の歩み」展の開催など、特筆すべき数多くの連携事業が行われたことは、館活動の将来にとって、さらなる連携が期待されるに違いない。
評価部会による所見	外部との協力も着実にすすめており、その成果は「ニューヨーク・アートシーン」展や「ミュシャと日本、日本とオルリク」展などにおいて十分あがっている。

### ①他機関への作品・資料の貸出し（協議会資料 49 頁-52 頁）

令和元年度目標	他機関へ作品・資料を貸出す。
自己評価・課題・改善案	13 の展覧会に対して作品の貸付を行った。（協議会資料 49-52 頁）

### ②国内外の美術館や関連組織等と連携した事業展開

令和元年度目標	国内外の美術館や関連組織等と連携した事業展開を行う。ICOM 京都大会に際し実施協力するとともに教育部会(CECA)のオフサイト・ミーティングを受け入れる。
自己評価・課題・改善案	<ul style="list-style-type: none"> <li>・特別展「ニューヨーク・アートシーン ロスコ、ウォーホルから草間彌生、バスキアまで —滋賀県立近代美術館コレクションを中心に」では、滋賀県立近代美術館の特別協力を得て、協働しながら展覧会を開催した。（詳細は協議会資料 6 頁）</li> <li>・ICOM 京都大会に関連して、和歌山県立博物館施設および和歌山県文化遺産課、和歌山市立博物館と共同で、教育と博物館活動に関する報告冊子『まもって、そだてる 和歌山県の博物館活動』を制作・発行し、国内・海外からの ICOM CECA 参加者に配布。インターネットでも公開している。（<a href="http://www.momaw.jp/publication/preservation_education_wakayama.pdf">http://www.momaw.jp/publication/preservation_education_wakayama.pdf</a>）</li> <li>・ICOM 京都大会に関連し、当館を会場のひとつとして、教育と文化活動委員会 CECA のオフサイトミーティング受け入れ(2019 年 9 月 5 日)に協力した。</li> <li>・「外交史料と近代日本のあゆみ」展開催にあたり、共催の外務省外交史料館および和歌山県立文書館とともに内容の検討、調査研究を行い、展覧会を実現した。（詳細は協議会資料 14 頁）</li> </ul>

## 7 安全と快適性

美術館長による所見	平成30年度末、年度末に休館を実施し、空気調和設備の大規模な工事を行うとともに、今年度は、展示室照明工事によってLED化をはかり、快適な展示鑑賞機会の整備をすすめた。しかしながら、新館開館から25年が経過し、引き続いて施設・設備面における老朽化対策、さらには収蔵庫の拡充による作品の保管環境整備も合わせ、さらなる課題の改善に向けて取り組む必要がある。
評価部会による所見	建築から四半世紀を経て、建物の保守、改修について、限られた予算の中だが専門知識を有した業者と相談し、必要な処置を可能な限り進めている。未整備の部分に関しては今後検討されたい。

### ①施設・設備の維持管理（協議会資料 53 頁以下）

#### A. 施設・設備の定期的な保守管理、日常的なメンテナンス、修繕、関係職員への教育等による安全確保

令和元年度目標	施設・設備の定期的な保守管理、日常的なメンテナンス、修繕、関係職員への教育等によって安全確保を行う。
自己評価・課題・改善案	定期的な点検で保守管理を行い、改善内容の把握に努め、細部にわたるメンテナンスを実施。また、来館者の目線で館の内外を点検することで、必要な修繕箇所にいち早く気付けた。

#### B. 施設・設備の改修や新たな整備

令和元年度目標	経年劣化による各設備老朽化に対し、修繕を行う。
自己評価・課題・改善案	2階展示室の照明配電盤及び照明機具の更新工事を行い、照明機具をLEDに交換。令和2年度には、1階展示室も行う計画である。経年劣化に伴う不具合で、館内への雨漏れがあったが、雨水配管が原因であったため、修繕を行った。継続して修繕を行う必要がある。

#### C. 日常的なメンテナンス等による施設の美観の保持・衛生管理

令和元年度目標	日常的なメンテナンス等により施設の美観の保持・衛生管理を行う。
自己評価・課題・改善案	日常的なメンテナンスを行い、設備の保持を行った。また、入口付近の清掃を実施し、施設の美観等衛生管理を行った。

#### D. 長期修繕計画

令和元年度目標	長期修繕計画に基づき、計画的に修繕を行う。
自己評価・課題・改善案	平成30年度から継続する空気調和設備熱源ヒートポンプユニット2機の更新が完了し、令和3年度以降のエレベーター設備の更新に向け現状調査を開始。また、空気調和設備のファンコイルユニット及び冷温水ポンプの更新を計画している。

### ②快適性の向上

#### A. バリアフリー対策・ユニバーサルデザイン等の対応

令和元年度目標	バリアフリー対策・ユニバーサルデザイン等の対応を取る。
自己評価・課題・改善案	必要に応じて点字ブロック等の改修を行った。

#### B. 利用者に対する接遇

令和元年度目標	利用者に対し適切な接遇を行う。接遇の向上を図る。
自己評価・課題・改善案	職員に対し、利用者への適切な対応をするよう指導した。

### C. 快適性向上のための上記以外の取り組み

令和元年度目標	施設の破損や汚れ等について、日常気づいた点を把握し、改善を図る。
自己評価・課題・改善案	施設の破損や汚れ等について、日常気づいた点を把握し、恒常的な雨漏りの修繕を行うなどの改善を図った。

## ③危機管理

### A. 危機管理・防災体制

令和元年度目標	危機管理・防災体制について、実地訓練等を行う。同体制について日常的な取り組みを行う。
自己評価・課題・改善案	地震及び火災時の避難訓練を実施した。新型コロナウイルス感染対策のため、開館に向けてアルコール消毒液を館内に設置し、職員用マスクを常備した。

### B. 個人情報の保護・データ管理

令和元年度目標	個人情報の保護・データ管理を適切に行う。
自己評価・課題・改善案	講演会等の展覧会関連事業開催に伴う参加者及び学芸員育成にかかる実習生の情報管理を適切に行った。

## ④職員研修

### A. 館内外の研修参加実績

令和元年度目標	館内外の研修に対して、職員が参加できる体制をとる。研修参加は各職員あたり2回以上の参加を目指す。
自己評価・課題・改善案	研修への参加には、できる限り対応したが、各職員2回以上は達成できなかった。

## ⑤情報公開・利用者のニーズなどの把握

### A. 使命、目標、計画などの方針の公開

令和元年度目標	使命、目標、計画などの方針をホームページ等で公開する。
自己評価・課題・改善案	<a href="http://www.momaw.jp/mission.php">http://www.momaw.jp/mission.php</a> に公開している。

### B. 実績や評価結果の公開

令和元年度目標	実績の検討や評価を行い、その結果をホームページ等で公開する。
自己評価・課題・改善案	<a href="http://www.momaw.jp/assessment/assessment.php">http://www.momaw.jp/assessment/assessment.php</a> に公開している。

### C. 入館者情報（年齢層・地域・情報入手手段等）の把握

令和元年度目標	入館者情報の把握を行う。
自己評価・課題・改善案	アンケートにより入館者情報の把握を行った。

### D. 利用者の満足度・ニーズなどの把握

令和元年度目標	利用者の満足度・ニーズなどの調査を行う。
自己評価・課題・改善案	アンケートにより利用者の満足度・ニーズなどの調査を行った。

#### E. 調査結果等を反映した運営

令和元年度目標	満足度・ニーズなどの調査結果を反映した運営を行う。
自己評価・課題・改善案	階段や床の汚れを清掃した。エントランスとホワイエ部分の汚損したワックスの除去を行った。大階段部分の除去が課題として残っている。

## 8 入場者数と財源の確保

美術館長による所見	入場者数では、年度末1月25日から照明工事のために休館としたとはいえ、夏季に開催した特別展「ニューヨーク・アートシーン」展での入場者増など、目標を上回る成果を示すことができた。また、平成30年度に引き続いて、「ニューヨーク・アートシーン」展でも、一般財団法人 地域創造の助成を得て、展覧会の予算面での充実をはかることができた。
評価部会による所見	大規模展が開催されたとはいえ、事業のための十分な経費が確保されているとは言えない状況であり、広報のための経費も不十分な中で、目標を超えた入場者数を確保できたことは評価される。しかし現在の状況が続けば、展覧会開催自体が行き詰まることも予想される。

### ①入場者数

#### A. 入場者数

令和元年度目標	入場者数は 46,000 人を目標とする。
自己評価・課題・改善案	54,903 人であった。

### ②予算の確保

#### A. 入館料収入 達成率

令和元年度目標	当初予算 11,938 千円に対する達成率を 100%とする。
自己評価・課題・改善案	入館料収入は 13,850 千円、達成率 116%で目標を達成。広報活動の充実を図り、さらに有料入館者数の増加を目指す。

#### B. その他の収入確保

令和元年度目標	駐車場収入 5,179 千円、行政財産使用料 1,625 千円、その他 2,307 千円を目標とする。
自己評価・課題・改善案	駐車場収入 3,535 千円、行政財産使用料 1,376 千円、その他 1,767 千円で、行政財産使用料以外は目標を下回った。今後は美術館・博物館の利用促進を目指し、広報活動の強化を図る。

#### C. 外部助成金等の獲得

令和元年度目標	今年度は申請しない(ニューヨーク・アートシーン展にかかる助成金については 3 頁を参照)。
自己評価・課題・改善案	「ニューヨーク・アートシーン展」については一般財団法人 地域創造より実行委員会に対する助成を得た。